

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

		要 旨
学位申請者	山川 暁【論文博士】	<p>山川暁氏による本研究は、わが国に伝来する中世期から近世にかけての染織品について、編年研究上の基準作を比定し効果的に分析するための方法論について検討するとともに、細部にわたる基礎データをもとに、関連文字資料や絵画資料の実証的な分析方法と、個別の事例研究を三章にわたって展開する。</p> <p>まず第一章「染織史における基準作の比定と分析」では、基準作を比定し、それを分析するための方法についてまとめている。山川は基準作を編年基準として応用するための分析方法として、関連文字資料の存在、科学的な調査に拠る年代測定、関連絵画資料の存在の三種を比定の要件として見だし、これを解明するために、染織品を構成する織物・組物などの構造分析、生地の上に施される加飾技法の分析、生地の裁断、縫製、寸法に注目した形状と仕立ての分析、文様そのものの分析に加え、従来から行われている雛形本の分析という五種の分析方法を提示した。</p> <p>第二章では、中世の染織品のうち、所用者の名とともに伝えられるため基準作となりうる作例が数多く存在するにもかかわらず、これまで詳細に研究されてこなかった禅宗の袈裟、伝法衣についての事例研究を進める。さらに第三章では、何れも制作年代の明らかな能装束や小袖地打敷などの近世染織品を取り上げ、関連文字資料の語る製作年代を確認するとともに、可能な限り、それぞれの作品が本来機能していた世界を復元する。</p> <p>こうした実証的な作品分析と事例研究を踏まえ、データを蓄積することにより、こうした基礎研究を基盤に今後の発展的研究が可能であることを提示する。</p>
論文題目	中近世染織品の基礎的研究	
審査委員	(主査) 教授 秋 山 光 文	
	教授 徳 井 淑 子	
	教授 高 島 元 洋	
	教授 安 田 次 郎	
	教授 天 野 知 香	